

防災対策など4項目について意見交換

知事と町長との1対1対談を実施

三重県と町は7月10日、町防災拠点施設にて「知事と市町長との1対1対談」を実施しました。

これは、対等なパートナーシップの関係にある県と市町が、市町固有の地域課題などについて、知事と市町長がオープンな場で議論し、共通した認識の醸成と課題の解決に向け一歩でも前に進めることを目的として開催しているものです。

対談では、①A L Tの配置にかかる財政措置、②防災対策（河川・海岸対策）、③防災対策（孤立地区の解消）、④熊野川の濁水対策、の4項目について意見交換し、地域活性化に向け課題解決のための検討を進めました。その後、昨年度町が整備したタイムライン防災情報共有システムの紹介を行いました。



対談する鈴木英敬知事（左）と西田町長（右）

Town topics
7/10



01. ウミガメの甲羅をタワシでしっかりと磨く。
02. ウミガメの体重測定。



ウミガメふれあいパークで清掃作業 ピカピカの姿でお迎えの準備

道の駅ウミガメ公園のウミガメふれあいパークのプール清掃が6月18日に行われました。

これは、ウミガメ公園を訪れる人に、きれいなプールで泳ぐウミガメの姿を楽しんでもらおうと、観光客が増える時期にあわせて、年に数回行っているものです。

今回はウミガメサポーターと「ウミガメネットワーク」の会員たち合わせて8人が参加しました。

参加者たちは、ウミガメの甲羅についたコケを磨き落としたほか、ウミガメの大きさや体重を測るなど、楽しそうにウミガメと触れ合っていました。

Town topics
6/18

事前の備えで地震・津波の被害を最小化

地震津波タイムライン検討会が発足

町は6月29日、まなびの郷で地震津波タイムライン検討会の発足式を開催しました。

これは、近い将来発生が予想される南海トラフを震源とする巨大地震による被害を最小限にするため、地震発生後の各段階で、「いつ」、「誰が」、「何を」するのか事前行動を策定するもので、国内初の取り組みとなります。

また、愛知工業大学教授の横田崇氏、東日本大震災を経験した小林喜美雄氏、紀宝町防炎行政総合アドバイザーの松尾一郎氏が講演し、小林さんは「日ごろから避難経路と避難場所を家族と話しあっておいてください」などと話していました。

Town topics
6/29



初めて東日本大震災の体験を話したという小林さん



01・02. 体じゅうをキャンパスにして楽しくお絵描きする子どもたち。



Town topics
7/3

自由に描いて、感性をみがく

うどの幼稚園でボディペインティング

うどの幼稚園は7月3日、感性を豊かにはぐくんでもらおうと、地肌に絵や模様を自由に描くボディペインティングを行いました。

これは、枠にとらわれずに、指先や手を使って自由に絵を描くことで、想像力や発想力の向上につなげようと平成23年度から行っているもので、体に害のないボディペイント専用の塗料が用いられています。

園児ら31人は、赤・青・黄・白・緑・水色の塗料から好きな色を選び、はじめは絵の具の感触をおそるおそる指で確かめていましたが、慣れてくると、はしゃぎながら全身をキャンパスにして、お絵描きを楽しんでいました。

さまざまな願いを短冊に込めて

成川(中村地区)で「七夕祭り」開催

成川の成川町内会は7月7日、毎年恒例の「七夕祭り」を町商工会青年部の協力のもと、就業改善センターで開催しました。

あいにくの空模様でしたが、午後5時ごろから、家族と一緒に浴衣や甚平に身を包んだ子どもたちが続々と訪れ、将来の夢や健康祈願などさまざまな願いを込めた短冊が飾られた笹を置いていきました。

また、就業改善センターの駐車場では夜店が並び、子どもたちは金魚すくいにチャレンジしたり、わたがしを食べたりして七夕の夜を楽しんでいました。

Town topics
7/7



願いが込められた笹が集まりました

自国の教育に生かすために

台湾宜蘭県の教員が井田小を訪問

台湾宜蘭県の教育関係者14人は、7月2日、井田小学校を訪問し、日本の教育現場を視察をしました。

これは、日本の教育現場を学び、今後の自国での教育に生かすことを目的に行ったものです。

宜蘭県の教育関係者は、井田小学校の1～6年生の授業を見学し、こまめにメモをとりながら、時にはカメラで授業風景を撮影し、台湾と日本の教育現場の違いについて、熱心に研究していました。

Town topics
7/2



授業を視察する宜蘭県の教育関係者